

令和8年度 佐々木喜善賞受賞者

佐々木喜善賞

1 佐々木喜善賞（3点）

豊富な種類の応募作品の中から選考を行い、特に優れた作品を佐々木喜善賞として表彰する。

◇【受賞作品】 論文「「話買い」の臨床心理学的考察」

【受賞者】 富松 良介

【講評】

臨床心理士の論者が『遠野物語』を読みながら、いかに「生きる」ことができるかと自問しながら書き進めた意欲的な論考。『聴耳草紙』や『老嫗夜譚』における「話買い」、井上ひさしの『新釈 遠野物語』についてと進み、喜善論としての骨格もしっかりしている。結論も説得力があり、今後の研究テーマとしても可能性が広がる。

◇【受賞作品】 文芸「おしら星」

【受賞者】 深堀 心

【講評】

天保の大飢饉から令和まで約200年、代々「勘助」を名乗る家の盛衰を当主の一人称で綴った意欲作。飢饉、養蚕、日清・日露戦争、第二次世界大戦と、時代の節目ごとに村と人の心がどう変わったかを史実に基づき淡々と描く構成が秀逸。土間の火を絶やさぬ掟や、神隠しに遭った少女の挿話が家の終焉と重なり、現在の遠野の姿を象徴する。未来へと続くスケールの大きな結末も印象的。21歳の学生とは思えぬ丁寧な時代考証に才能を感じる。

◇【受賞作品】 絵画「こくり」

【受賞者】 メノー／横川 奈月

【講評】

「こくり」というさまざまに姿を変容させる狼のあやかしを、ライフワークとして探求し、表現してきた作者による初期作。過去作との連なりからも、このテーマに継続して向き合ってきた姿勢が伝わる。一点ものの作品としてはやや強度に疑問が残り、また遠野物語中の狼信仰との接続もやや難があるものの、今後の展開に期待し、受賞作とした。

2 佐々木喜善賞奨励賞（2点）

応募作品の中で最後まで選考に残り優れた作品に対し、特別に奨励賞を設け表彰する。

◇【受賞作品】 論文「佐々木喜善の昔話集における笑話」

【受賞者】 黒澤 遼太郎

【講評】

佐々木喜善の昔話、特に『江刺郡昔話』の「笑話」と『遠野物語』との差異を論じた作品。とくに目立つのが、喜善の「偽汽車」を柳田の「狸とデモノジー」や早川孝太郎と比較しながら、「狐の怪異に関する笑い話は現実との折り合いをつけていくための切実な労苦の結晶」と書く、20代の論者の文章力である。まとめの指摘も説得力があり、論者の今後の研究の方向性も示されているのがよい。論とすれば、ここからの展開に期待したい。

◇【受賞作品】 文芸「マヨイガの赤い花」

【受賞者】 五代 陸

【講評】

遠野市で見つかった地番のない空白の土地＝脱落地の謎を、地籍調査を通じて追う物語。測量の専門家である作者が、明治期の図面と現代地籍図を重ね、測量用語や科学的知見を随所に織り込みながら説得力をもって描く。主人公が5歳の時祖母の家で見た赤い花とふちの欠けた椀の記憶が伏線となり、大学助教となった主人公が土淵町の脱落地こそマヨイガの地と証明していく展開はサスペンスとしても読ませる。専門用語の使用に難解な部分はあるが、不思議さは十分に伝わる佳作。